

令和2年度

瑞穂市自治会連合会 事業報告会

コロナ禍の中で 新たな活動の実施

(十九条中自治会) …P 1

地域で子どもを育てる「みえじっ子応援塾」

(美江寺自治会) …P 8

子ども・もりもり学習サロン

ー学習を支援する自治会活動ー (森自治会) …P 13

日 時：令和2年12月3日(木)

第1部 事例発表 14:00～14:50

第2部 研修会 15:00～16:00

場 所：瑞穂市総合センター サンシャインホール

新型コロナウイルス感染症の第3波の状況の中、感染症対策には十分努めることを条件に、今回で3回目となる事業報告会の開催を決めました。それは、今後も続くであろう「コロナとともに生きる社会」においても、地域コミュニティの力は重要だからです。

令和2年度は、コロナの影響を受け、自治会や校区の事業の多くは、中止をせざるを得ない状況となり、地域コミュニティにとっても危機的状況の一年でした。しかし、この感染症という災害に見舞われたような状況下において、新たに発生した地域課題に、地域コミュニティの力で、新たな手段で立ち向かう自治会の活動がありました。

本日の報告事例から、コロナに立ち向かう地域コミュニティの力を感じていただきたいと思います。地域のみなさんの地域への思いが積み重なって実現した事例です。これらの活動を通じて生まれた地域の絆は、決してコロナにも負けません。

本日の事業報告会が、「コロナと共に生きる社会」において、地域コミュニティの意義や、地域のつながりの重要性を、改めて考えていただく機会になれば幸いです。

NO. 1

<p>【テーマ】</p> <p>コロナ禍の中で、新たな活動の実施 ー活動を発展させることで支え合い、助け合う地域の基盤となるつながりを 深め、広げ、人を育てるー</p>
<p>【活動主体】 十九条中自治会・実行委員会</p>
<p>【活動趣旨】</p> <p>● 期 間 スマートフォン写真コンクールと写真展 令和2年度 子どもを核とした地域づくり 平成30年度～</p> <p>● 目 的 支え合い、助け合う地域の基盤となるつながりを深め、広げるとともに活動を担 う人を育てる</p> <p>● 内 容 社会的な孤立が進行するコロナ禍のなかで、「小さな幸せ見つけた」というスマ ートフォン写真コンクールと写真展を実施し、地域住民のつながりを深め、幸せ な気分を共有した。 地域の課題を解決のために継続的に取り組んできた子どもを中心とした活動を 段階的に発展させ、人のつながりを深め、活動を支える組織づくりを担う人を育 てることに努めた。</p> <p>● 活動のポイント・工夫等 スマートフォン写真コンクール・写真展 ・誰もが参加しようと思えるような気軽さ ・ウイズコロナに対応して、メール、ライン等のITの活用 子どもを核とした継続的な事業 ・地域課題の明確化と課題解決のための活動の継続と工夫改善 ・活動を通して、つながりを深め、担う人の育成</p>
<p>【成 果】</p> <p>第2回スマートフォン写真コンクールを実施してほしいという声が多く、自治 会事業に対する意識の変革を行うことができました。また、次回は実行委員として 協力したいという人もいます。 継続的に地域課題を解決する事業を展開することで、多世代の交流など、地域の 人のつながりは深まりつつあります。</p>
<p>【課題と今後の展望】</p> <p>新規転入者、小学校区が重複するといった問題は今後も続くことが想定されま す。自治会役員会と実行委員会のそれぞれ役割を明確にし、活動内容の充実を図る ことが今後の課題です。また、実行委員会のメンバーの充実を図ることで自治会活 動を担う世代交代を適切に進めたいと考えています。</p>

コロナ禍の中で、新たな活動の実施



活動を発展させることで、
支え合い、助け合う地域の
基盤となるつながりを
深め・広げ、人を育てる

十九条中自治会



P2

コロナウイルス感染症拡大防止⇒活動が中止
社会的な孤立の一層の深刻化・ストレス

人と人のつながりが不安定な時代を乗り越える力
つながりの実感は幸福感を高めストレスの軽減

人のつながりを強め、落ち込んだ気分からの解放

「小さな幸せ見つけた」
スマートフォン写真コンテスト・写真展

P3

スマートフォン写真コンクール

ねらい；コロナ禍の中支え合い、助け合う地域の基盤となる地域住民のつながりを強め、幸せな気分を共有する

①ウイズコロナのなかで 小さな幸せを感じた場面をスマホで撮影
⇒気軽に参加のできる・インスタ映え・写真の撮り方⇒こめた思いを大切に

②応募資格は中自治会内に在住の小学生以上
⇒多世代交流

③写真はメール・ラインで実行委員会に応募

⇒自治会活動もIT化・ウイズコロナを想定して、活動形態の工夫

実行委員は、68歳の高齢者と高校生、大学生<多世代集団>
ボランティアスタッフは75歳の高齢者と小6と中1

P4

「小さな幸せ見つけた」スマートフォン写真展

★日時；令和2年10月18日午後2時～4時 場所；北部防災センター

★応募目標20点⇒43点が集まる 応募者；6歳～79歳 多世代が応募

★写真展に70名が参観し、審査員となって『幸せ大賞』投票



入口で
コロナ対策
検温・消毒

高校生の実行委員と
中学生スタッフが受付

家族で参観
写真を見ながら、楽
しい会話

中学生スタッフがサ
ポート

P5

「小さな幸せ見つけた」スマートフォン写真展 感想

コロナ社会の中での新しい取り組みでたいへんステキなことだと思えます。
出品された写真も、美しい写真、楽しい写真、かわいい写真など見せてもらう方も心がほっこりするものばかりでした。その中でも、地域の中での子どもの姿が私には特にひびきました。やっぱり、自分も母として、子どもたちの幸せが一番願うからかもしれません。ステキな時間をありがとうございました

自治会の思いも一緒です。
感想ありがとうございました

P6

ここからの流れ

1. 十九条中自治会の特性
2. 課題の明確化
3. 子どもを核として（小学生のつどい）
4. 活動の工夫
5. 活動の継続が組織と人材を育てる
6. 実践を通して
7. 今後の活動について

P8

活動を継続しなければ
支え合い、助け合う地域の基盤となる
つながりが維持できない地域の特性

P7

十九条中自治会の特性

平成20年4月 十九条自治会が3分割して誕生
 平成30年4月 会員数187戸 子ども人口163人
 令和2年4月 会員数211戸 子ども人口165人

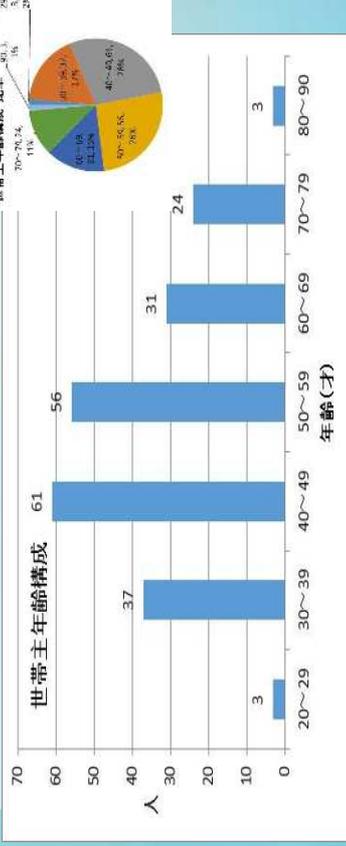
高齢化率；中自治会12.28 < 瑞穂市平均21.27 >
 子ども率；中自治会19.06 < 瑞穂市平均15.82 >

▶ 中自治会の会員数は、ほぼ年間10軒ずつ増加
 ▶ 高齢者が少なく、子供が多い

(高齢化率は瑞穂市の平均より低く、子ども率は高い)

P9

世帯主の年齢構成



平均年齢は約52歳
 50歳未満は47%と比較的若い

P10

十九条中自治会の実態をもとに課題の明確化

- つながりが少ない
 - ・他地域からの転入者が多い⇒第一世代地域や相互のつながりが弱い
 - ・新たにマイホームを建て転居⇒この地を新たな故郷に
 - ・共働きが多く多忙 働き盛り⇒自治会活動への関心が低い
 - ・夫婦と子ども家族 子育て期⇒子育てや教育への関心が高い
- 地域のつながりを支える学校
 - ・「学校」=住民相互のつながりや知り合いのキー
 - ・子どもが同じ学校に通学・PTAで保護者のつながり

中自治会在住の小学生は校区の牛牧小と南小 に通学
 // 中学生は校区の穂積中と果南中に通学

P11

地域課題を解決するために
 住民相互のつながりを強める活動を
 どのように展開したのか

P12

「小学生のつどい」に参加して 感想

このよなを会を計画していただいてありがとうございます。南小に通わせていただいたため、近所に同年代の知り合いがなく、子どもも参加に不安を感じていましたが、今日参加してみても、楽しそうにしていて、安心して参加しました。

今後ともぜひ続けていただけるとありがたいです。今回参加できなかった子どももいるので声をかけてみます。

令和1年 第3回 2月16日
 小学生 37人
 保護者 8人
 大学生 1人



P13

活動の工夫・改善1

二つの学校に通学すること 隣に住む全く知らない同級生
 <大人になっても同じ学校に通学したというつながりがない>
 地域の住人のつながりをつくる機会が奪われている
 <地域の子どもの問題に一体となって取り組みにくい>

平成30年 自治会主催「小学生のつどい」・・・小学生が学校の枠を超えて交流
 現実が生み出す危機を、「ピンチはチャンス」自治会だより等で発信
 担い手不足は参加者の保護者・家族
 ⇒令和1年 第3回 2月16日
 小学生 37人
 保護者 8人
 大学生 1人



P14

活動の工夫・改善1

令和1年7月21日 午前 防災センター
 「ミニ盆踊り」自治会夏祭り

- ・地域の小中学生と地域の大人、相互に知り合いになるイベント
- ・事前に「小学生のつどい」で盆踊り練習会
- ・東自治会とも連携
- ・かき氷・冷やそうめん・ソフトクリーム・タピオカドリンク等

バザー
 ・スタッフは自治会役員
 +自治会だよりで募集
 <15人>



P15

エリカトピックス
 7月26日(金)



P16

活動の工夫・改善 2

多世代の交流の場として敬老祝賀会

- 令和1年9月15日
十九条の3自治会開催から対象者増加から2会場開催
中自治会は防災センターで開催 対象者2自治会 19人
小学生ボランティア10人・中学生2人
- 実施方法の改善
高齢者の会⇒「小学生のつどい」に参加する小学生を中心に募集
多世代交流の場
運営は自治会役員⇒「夏祭り」にボランティア参加した」中学生
家族同伴の参加 参加しにくい対象者を参加しやすくする



P17

「多世代の交流の場として敬老祝賀会」 感想

「とても楽しい会でした。交流会では、いろいろを話ことができました。競争の話や、教科書では学べない貴重な経験をすることができました。また、笑顔で話される姿に、私まで元気をもらいました。あっという間の時間でした。
このような小中学生のイベントを増やしてほしいです。」

これを書いた中学生は、現在、高校生として実行委員会のメンバーとして活躍しています。

P18

活動の継続が組織と人材を育てる

- 小学生のつどいの実施<やってみる> 平成30年度
- 小学生のつどいの継続化<参加者の定着>⇒保護者の協力依頼<できる人手伝って>
- 子どもを中心にした地域のお祭りに発展 令和1年度
自治会役員が中心 小学生のつどいでつなげたボランティア
多世代交流の敬老祝賀会 小学生のつどいの参加者と高齢者の連携
活動の担い手の育成・・・中学生のボランティア
- 令和2年度・・・活動の継続化<自治会役員は2年で交代>
自治会の組織に実行委員会を位置づける 実行委員長は前自治会長が就任
実行委員長が活動を継続する
- 実行委員のメンバーは、自治会長・前自治会長・昨年活躍した高校生
実行委員長が、研修会で一本釣りをした大学生

P19

実行委員 川合さんのメッセージ



P20

実践を通して

- ▶ 例年通りの発想から一改善一工夫の発想
 - ▶ 地域課題があるから活動が深化・発展
 - ▶ 成果は、人のつながりの広がり
- 地域活動を担う若い世代の増加

P21

今後の活動について

十九条中自治会の規約

第1条
自治会活動の基本となることは、十九条中自治会規約第1条です。

十九条中自治会の規約 第1条

十九条中自治会は、会員相互の絆を深め、支え合うことを通して、一人一人の会員が、安心・安全で心豊かに生活できる地域づくりをすることを目的とする。

この中の主旨は以下の2点

1点目は、地域の皆さんの安心・安全の確保と向上

2点目は、地域の皆さんの協働、相互扶助の向上

1点目の安心・安全な地域づくりにつきましては、皆さんからのいろいろな要望などの集約を行い、自治会役員が主体となって市、区などと協力して進めて参ります。

2点目の協働、相互扶助につきましては、自治会の中の組織として実行委員会で行い、主に会員相互の絆を深める活動(夏祭り、敬老会など)を実行委員会を挙り、実際に活動する組織とします。委員様の自治会への参加、協力を得ることで自治会活動の活性化を図ることが出来るかと考えます。

1点目は、地域の皆さんの安心・安全の確保と向上は、自治会役員の主な仕事、

2点目は、地域の皆さんの協働、相互扶助の向上は、実行委員会の主な仕事

自治会、実行委員会が同僚となり自治会活動を考えも進めて参ります。

P22

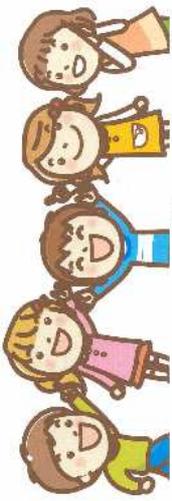
ご清聴
ありがとうございました

P23

NO. 2

<p>【テーマ】</p> <p>地域で子どもを育てる「みえじっ子応援塾」</p>
<p>【活動主体】 美江寺自治会</p>
<p>【活動の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●期 間 令和2年6月29日～8月7日の月・水・金 16:00～18:00 8月13日・14日・17日・18日 9:00～12:00 10月3日～12月19日の毎週土曜日 8:50～11:50 ●目 的 新型コロナウイルス感染症のため、約3か月に及んだ家庭学習の期間で、子どもたちは、学力格差等の不安を抱える状況にある。そんな子どもたちを、地域で見守り支援すること。 ●内 容 美江寺公民館を会場に、中小学校へ通う美江寺自治会の児童を対象に実施ということで始めました。子どもたちは、自分の苦手な教科を中心に自分のペースで学習をします。サポートが必要な時は、「みえじっ子応援塾」代表の戸田さんをはじめ、自治会長、民生委員や学生ボランティアなど、地域のスタッフが支えます。 ●活動のポイント・工夫等 【活動の広がり】 美江寺自治会の小学生→中小学校の児童→中小学校区の小学生・中学生 学習支援→子どもの居場所→世代を越えた居場所
<p>【成 果】</p> <p>夏休みの期間に限定して始めましたが、子どもたちから延長の希望があり、毎週土曜日の午前中に引き続き開催しています。毎回たくさん子どもたちが参加してくれます。子どもたちの頑張っている様子からは元気がもらえますし、いろいろな子どもの様子が分かります。地域の大人のみなさんも、子どもたちと一緒に、楽しく学習したり遊んだり世代を越えた地域のつながりがどんどん広がっていきます。</p>
<p>【課題と今後の展望】</p> <p>「みえじっ子応援塾」の当初の目的は「学習支援」でしたが、活動が進むにつれて、自由活動を取り入れ「子どもたちの居場所」づくりを意識しています。地域の世代を越えたつながりの中で、子どもたちが「自ら考えること」や「友を大切に作る心・思いやる行動」などを経験し、学んでくれるといいと思っています。今後も美江寺公民館を「子どもたちの居場所」「世代を越えた地域の居場所」として集ってもらえる場所として活用していきたいと思っています。</p>

地域で子どもを育てる



みえじっ子 応援塾

美江寺自治会長 矢野雅敏

1. 目的

コロナにより3月～5月までの約3か月の長期の休校。
子どもたちは、この期間、家庭学習となり、
学力格差等の不安を抱える状況。



子どもたちを、
地域で見守り支援すること。

2. 事業概要

美江寺自治会の有志が、美江寺公民館を会場に、
子どもの学習の遅れを取り戻すために
個別指導の塾を開催。

- 【対象】 中小学校に通う美江寺の児童
- 【期間】 令和2年6月29日～8月7日の月・水・金
- 【時間】 16：00～18：00
- 【場所】 美江寺公民館

子どもたちの様子

毎回23人～30人程度の子どもの積極的な参加



子どもたちの様子



一人でもくもくと勉強する子
ライバル心を持って友達と勉強する子
いろいろな子どもたちの様子が見られます

様々な協力者

美江寺自治会「みえじっ子応援塾」

代表 戸田一文（学習塾経営）

民生児童委員

美江寺こども会

中小学校の先生・PTA

高校生・大学生

ちよつとつながりたいのみみなさん

その他 地域の多くのみなさん



事業の広がり①

- 子どもたちから事業延長の希望
【追加開催】 8月13日・14日・17日・18日
9：00～12：00

- 参加者の拡大

中小学校の児童

- 子どもたちの居場所づくり

コロナ禍の短い夏休みに、感染防止対策を行った上、
公民館を居場所として開放。

17日にはこだまちなつさんの

「音楽のまなびコンサート」も開催。

事業の広がり②

- 子どもたちから事業延長の希望
【追加開催】 10月 毎週土曜日
8：50～11：50

- 参加者の拡大

中小校区の小学生・中学生

- 活動内容の広がり

【開催目的】

自ら考える、友達を思いやる行動を身につける。

【塾の内容】

自主勉強 9：00～11：00・自由活動 11：00～12：00

事業の広がり③

- 子どもたちから事業延長の希望
【追加開催】 11月～12月19日 毎週土曜日
8：50～11：50
- 参加者の拡大 → 地域の世代を越えた居場所へ
中小校区の小学生・中学生・美江寺の皆様
- 活動内容の広がり
【開催目的】
自分で考え行動する力と友を大切にすることを。
様々な世代が子どもたちと一緒に学び、遊ぶ。
【塾の内容】
自主勉強 9：00～11：00・自由活動 11：00～12：00



子どもたちは、地域のみなさんと一緒に
一生懸命勉強し、楽しく遊んでいます！

地域のみなさんも

子どもと一緒に時間をとても楽しんでいます



子どもの居場所が
地域の中にあること

子どもが地域をつなげる
地域が子どもを育てる

子どもの居場所が
地域の中にあること



地域の大人も集う
世代を越えた
地域の居場所ができる



みえじっ子応援塾は

地域のみんなが
楽しく元気に過ごせる

「世代を越えた居場所」

ご清聴
ありがとうございました。

NO. 3

<p>【テーマ】</p> <p>子ども・もりもり学習サロン –学習を支援する自治会活動–</p>
<p>【活動主体】 森自治会</p>
<p>【活動の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none">●期 間 令和2年8月～●目 的 新型コロナウイルスの影響などで学習ペースが乱れがちな子どもたちに、一緒に勉強する場を提供する。●内 容 <p>新型コロナウイルスの影響で、2ヶ月の休校、夏休みの短縮など、子どもたちの日常は例年と変わってしまった。そんな折、美江寺自治会さんの取り組みを知り、学習ペースが乱れがちな子どもたちを森自治会としても支援できないか考えた。そして、8・9月の毎週土曜に、公民館を宿題や自主学習の場として提供することにした。2ヶ月の予定だったが、好評だったので、その後も月2回のペースで活動を継続している。</p>●活動のポイント・工夫等<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策を講じつつ、地域の公民館を子どもたちの宿題や自主学習の場として活用する。・遊びの時間も設けて、異年齢の子どもたちが楽しく過ごせる場とする。
<p>【成 果】</p> <ol style="list-style-type: none">1 子どもたちが、土曜の午前を学習中心に有意義に過ごせている。2 子どもたちが、休憩時などの遊びを通して、友達と楽しい時間を過ごせている。
<p>【課題と今後の展望】</p> <p>中心的運営メンバーに負担がかかりがちなので、ボランティアメンバーを増やし、負担軽減を図りたい。また、定期的に遊びのイベント時間を設けて、子どもたちが学習とともに楽しい時間を過ごせるようにしていきたい。</p>

子ども・もりもり学習サロン ～地域が子どもたちを育てる～



森自治会 自治会長 太平 高司
子ども・もりもり学習サロン 代表 溝部 美幸

次第

1. 目的
2. 概要
3. 具体的内容
4. 成果と今後の方針
5. 課題
6. まとめ

1. 目的

- 新型コロナウイルスの影響などで学習のペースが乱れがちな子どもたちに、一緒に勉強する場を作る。

この目的の実現を目指し、公民館を利用して、地域が子どもを育てる『子ども・もりもり学習サロン』を開校し、休日の勉強の場の提供と、質問できる環境づくりを行う。

2. 概要

<期間> 8/8 (土) ～ 9/26 (土) 毎週土曜 8:30～10:30
(当初)

<場所> 森 公民館

<対象> 西小学校に通う森区の児童

<主催> 森自治会

(共催：西小学校運営協議会、森区子ども会)



3 具体的内容

(1) ボランティアスタッフ

<代表・事務局>

溝部 美幸 (森自治会評議員、西小学校運営協議会委員)

<講師> ※当初2ヶ月

大平 高司 (森自治会長) ・小森 保直 (西小運営協議会長)

地元の大学生 (教育学部関係) 2人

<運営>

子ども会4名、地域の方2名ほどが交代で。

(2) 学習サロンの参加人数

・平均15名 (森区の西小全児童37名の約40%)

	合計人数	6年生	5年生	4年生	3年生	2年生	1年生
第1回	16人	5人	2人	2人	6人	1人	-
第2回	14人	4人	2人	3人	4人	1人	-
第3回	12人	5人	-	2人	4人	1人	-
第4回	13人	4人	1人	3人	4人	1人	-
第5回	17人	5人	2人	3人	6人	1人	-
第6回	15人	5人	1人	2人	5人	2人	-
第7回	16人	4人	2人	3人	6人	1人	-

・新型コロナウイルス感染対策として、5、6年生を公民館1階、2～4年生を公民館2階に会場を分けました。

(3) 学習の状況 (その1)

- ・新型コロナウイルス対策で長机1脚に1人
- ・50分学習+15分休憩+50分学習 (2限目は学習後の退席可)
- ・子どもたちは、漢字や計算の宿題、自主学習を実施。



1～4年生の様子 (2階)



5、6年生の様子 (1階)

(4) 学習の状況 (その2)

- ・自発的質問は少ないので、講師は学習状況を見て助言したり、ドリル終了後に計算や漢字の誤りを点検したりしています。



学習状況を見る講師



子どもたちに助言する講師

(9) 小学校との連携

アイ 新型コロナウイルス対策など、西小校長辻先生にも相談しつつ実施。
イ 辻校長先生と、森担当の廣瀬先生も見学に。



↑ 辻校長先生



↑ 廣瀬先生

4. 成果と今後の方針

- ① ニヶ月終了後の数値アンケートより
- ・学習サロンは、今後も継続してほしいか。
〔児童〕 毎週やってほしい……42%
2週間に1回ぐらいやってほしい……58%
 - 〔保護者〕毎週やってほしい……36%
2週間に1回ぐらいやってほしい……55%
月に1回……9%

② ニヶ月終了後の記述アンケートより (保護者)

- 近い場所で安心できる人、友達と勉強をできる場を作っていただき、ありがとうございます。
- 勉強嫌いな子が学習サロンにはすんなり行ってくれます。このような場を作っていたいただき、感謝します。
- 家にいるよりも、学習サロンで有意義に過ごせているのでありがたいです。
- 授業後の遊びも楽しいようです。今後も継続してほしいです。

③ 成果

- 1 子どもたちが、土曜の午前を学習中心に有意義に過ごせている。
- 2 子どもたちが、休憩時間などの遊びを通して、友達と楽しい時間を過ごせている。

④ 今後の方針

アンケートの結果、参加者全員から継続の希望がありました。

森地区の宝である子どもたちの笑顔と育成のために、

学習サロンは、10月以降も月2回（第1、3土曜日）で継続中！

⑤ イベントの開催

アンケートの結果、イベント開催の要望があり、以下の計画を立て、一部すでに実施しました。

● クイズ大会（10月24日（土）開催）

シルエットクイズ、形あてクイズ、なぞなぞなど

● 漢字検定 模擬試験（12月5日（土）予定）

● 算数検定 模擬試験（12月19日（土）予定）

● 昔の遊び大会（2月予定）

● DVD鑑賞（4月予定）

5. 課題

課題1：ボランティアの負担軽減

課題2：新型コロナウイルス感染症対策

課題3：西小校区内の他地区への展開

課題1：ボランティアの負担軽減

事務局・講師等のスタッフの負担を軽減するため、保護者や地域の方に協力の声かけを必要が
あります。（準備・片付け、受付等の手伝い）

→12月現在、スタッフの数が増えています。

課題2：新型コロナウイルス感染症対策

学習サロンは『不要・不急なイベント等』には該当しません。子どもを送り出す保護者の方は心配されます。

そのため、今後以下6項目に充分配慮して行っていきます。

- ①体温の確認、咳の有無、体調の確認 ②換気
- ③ソーシャルディスタンスの確保 ④マスクの着用
- ⑤会場の消毒 ⑥手指消毒

[With コロナで、できる活動を行っていく!](#)

課題3：西小校区内の他地区への展開

森地区で、[西小校区モデル地区](#)として宿題などのお手伝いをするサロンを始めましたが、他地区への展開ができていません。

今後、校区内の他の自治会などに学習サロンについてPRし、ノウハウを共有したいと思っています。

6. まとめ

森自治会では、子ども・もりもり学習サロンで築いたコミュニティの絆を、地域の他の活動の充実にもつなげていきたいと考えています。

- ①地域の子どもたちの育成
(通学路での見守り、挨拶運動等)
- ②自治会活動の活性化 (サマーフェスタ、春祭り等)
- ③災害に備える地域力の強化 (防災活動への参加)

ご清聴
ありがとうございました

